

令和6年4月に介護報酬の改定が行われ、主な視点の「地域包括ケアシステムの深化・推進」「重度化防止に向けた対応」「良質な介護サービスの効率的な提供・働きやすい職場づくり」「制度の安定・持続可能性」に対応し取り組みました。また、法人理念「笑顔の創造 心と心意気」のもと「地域福祉の拠点」となり、最良の介護サービスを継続して提供できる体制の促進を図るために、次の重点項目を掲げて事業を推進しました。

1 中期経営計画書（令和6年度～令和8年度）の重点事項

1. ご利用者の尊厳を守る生活支援と自立支援に向けた介護に取り組む。
2. 介護職員等の人材確保・育成及び定着の促進に取り組む。
3. 介護業務の労働負担の軽減及び労働生産性の向上に取り組む。
4. 社会福祉法人として、地域の公益的取り組みを検討し実践する。
5. 感染症や災害への対応力向上及び被災した事業所への支援体制を構築する。

2 適正に事業を運営する

1. 介護報酬の改定による報酬体系を研究し、新たな加算の算定に取り組みました。（介護老人福祉施設）
 - ①科学的介護推進加算Ⅱ
 - ②栄養マネジメント強化加算
 - ③褥瘡マネジメント加算Ⅱ
 - ④生産性向上推進体制加算Ⅱ
 - ⑤配置医師緊急加算

2. 食費・居住費の料金改定を令和6年4月1日に行い、高騰する電気料、食料品等の対応を行いました。
 - ①食費 1,630円/日(変更前1,460円)
 - ②居住費 2,330円/日(変更前2,140円)

3. 数値目標

令和7年3月31日時点

1)介護老人福祉施設 + ショートステイの合計 稼働率 92.3%(前年比+1.9%)

2)介護老人福祉施設(略 特養) 稼働率 95.9%(+1.2%) ①平均介護度3.9 ②平均年齢90.3歳

③入居者 77名(男性9名 女性68名) ④介護度別 介護3・24名 介護4・34名 介護5・19名

⑤出身地 福井市67名 鯖江市5名 越前市1名 坂井市1名 大野市1名 勝山市1名 県外1名

⑥新入居 26名 入居前の居所 自宅2名 医療機関11名 老人保健施設(老健)2名 その他11名

⑦退居者 26名 退居の理由 死亡20名(看取り16名 医療機関4名) 自主退居6名(医療機関・老健)

⑧入院者 延人数 32名(-4名) 延日数1,065日間(+249日間) 一人あたり33日間(+11日間)

3)ショートステイ(略 ショート) 稼働率 76.8%(+4.2%)

①登録者 43名 ②地区別 文殊12名 上文殊1名 東郷6名 麻生津7名 市内12名 鯖江市2名 越前市3名

③介護度別 介護1・9名 介護2・9名 介護3・19名 介護4・4名 介護5・2名

4)デイサービスセンター(略 デイ) 稼働率 53.4%(-2.2%)

①登録者 36名 ②地区別 文殊19名 上文殊4名 東郷1名 麻生津7名 六条3名 市内等2名

③介護度別 要支援・3名 介護1・9名 介護2・8名 介護3・14名 介護4・1名 介護5・1名

④居宅、医療機関(地域連携室)等に広報活動を行った。12月～3月ショートステイ利用により長期休む方が増加。

5)居宅介護支援事業所(略 居宅)

①登録者 74名(+7名) ②地区別 文殊39名、上文殊4名、麻生津15名、東郷1名、一乗1名、市内等14名

③介護度別 要支援11名 介護1・14名 介護2・11名 介護3・29名 介護4・8名 介護5・1名

3 管理部門

1. 社会福祉法人として、地域の福祉ニーズに応じた公益的取り組みを検討し実践。

- 1)福井市社協への協力 ・オープンサロン ふらっとバル事業に福祉専門職員を毎月1回、延12人を派遣した。
- 2)福井県社協への協力 ・サマーボランティア体験受け入れ事業に参加した。(体験の対象 学生、社会人)
- 3)足羽中学校への協力 ・授業「地域の担い手づくりキャリア教育プログラム」の講師に福祉専門職員を派遣。

2. 介護職員等の採用活動を強化し、幅広い分野から優秀な人材を獲得。

- 1)職員によるリクルート委員会を中心に、就職支援活動を高等学校等に行い5名を採用した。
 - (1)新卒採用 :介護職2名(高校生) (2)中途採用 :介護職3名(ハロワーク、介護労働安定センターの紹介)
- 2)外国人材の受入・定着支援を進め、タイ人技能実習生の介護指導・生活支援等を行った。
 - (1)第2期生2名 介護技能評価試験「専門級」に合格。(2)第7期生2名の職員体制等の受入準備を行った。
- 3)シニア世代(60歳以上)の人材活用。21名活用 内訳 介護10名、看護4名、調理1名、清掃1名、運転3名、宿直2名

3. 介護業務の労働負担の軽減及び労働生産性の向上。

- 1)中重度者の入居者等の対応及び介護業務の負担軽減・腰痛対策等に取り組んだ。
 - (1)生産性向上委員会の設置及び中重度の入居者の対応等を研究し介護機器等を導入した。

- ①ICT推進 : a a m s (見守り機器) 10台導入し、入居者の体調確認や巡視等の負担を軽減した。
- ②介護ロボット: 自動体位交換機能付エアーマット1台を導入し、計7台を活用した。(褥瘡防止)
- (2)運動インストラクターによる「職員のリフレッシュ体操」を月1回実施した。参加延数160人
- (3)産業医との連携 ①健康相談を月1回実施し、心身の不調等に対応した。 ②作業場の巡回指導を実施した。
- (4)ハラスメント対策の相談窓口を継続した。 コンプライアンス委員会による職員研修会を実施した。
- 2) 介護サービスの質の向上に取り組み、高い専門性を有する人財の育成に取り組んだ。
- (1)職員表彰 勤続10年(法人)5名・勤続15年(全国老人福祉施設協議会(略 全国老施協))3名
- (2)外部研修 全国老施協全国大会(滋賀)3名、社福法人東海北陸経営者セミナー(名古屋市)1名
ユニットリーダー研修(大阪、京都)2名、福祉機器展示会(大阪等)11名、特養の視察4名

4. 感染症や災害への対応力向上及び被災した事業所への支援体制を構築。

- 1)BCP(事業継続計画)を運用し、利用者へのサービス提供を継続するための研修・訓練を行った。
- (1)新型コロナ等感染症の事業所内発生を想定し、感染対策等の内部研修及び訓練を行い感染防止に努めた。
- (2)自然災害発生時を想定し内部研修・訓練を行い、防災・減災の対策に取り組んだ。
- (3)福井市消防競技大会に職員2名が出場し、屋内消火栓の部(男子)において入賞した。
- 2)自然災害発生時を想定し、地域との福祉支援体制の強化に取り組んだ。
- (1)文殊地区防災研修(地震)に職員2名が受講。(2)福井市から福祉避難所用物品の提供を受け開設に備えた。
- 3)令和6年能登半島地震の発生において、被災した事業所での復旧支援活動を行った。
- (1)全国老施協DWA T(災害派遣福祉チーム)1名登録し、特養(石川県能登町)での災害復旧支援活動を行った。

4 生活支援部門

- 1. 地域包括ケアシステムを推進し、地域包括支援センター等との連携及びキャラバンメイト(職員)の活動。
- 1)認知症にやさしいまちづくり協力事業所に登録した。(福井市 認知症の方が安心して暮らせる地域づくり事業)
- 2)地域包括支援センター等と連携し、介護予防・認知症支援事業の講師にキャラバンメイト等を派遣した。
文殊地区介護予防教室、認知症サポーター養成講座(文殊小・六条小)、東足羽キャラバンメイト交流会等

2. ご利用者の尊厳を守り、生活支援サービスの質の向上。

- 1)福祉施設職員としての職業倫理を周知し、高齢者虐待ゼロ及び身体拘束ゼロに取り組んだ。
- (1)虐待及び身体拘束適正化の委員会・研修を定期的に開催し、福祉専門職の資質向上に取り組んだ。
- (2)福井市介護相談員の定期訪問を受け、入居者・利用者等の相談対応等を行った。(福井市介護保険課)
- 2)生活に潤いを与え、心身の健康増進に取り組んだ。
- (1)園芸活動 ①スイカ、トマト、スイートコーン、ゴボウ等の植付けや収穫体験を行った。
②季節の花 チューリップ球根植え、コスモス種まき、バラ園等の環境整備を行った。
- (2)音楽活動 ①歌・楽器演奏のボランティア受け入れ。 ②9月盆踊り、12月のど自慢大会等の開催。
- (3)新鮮で安全な食材を使用。①地元業者の食材を購入。(米・野菜等) ②サンマ焼、焼き芋会等を実施。
- (4)移動スーパーの利用を開始し、在宅と同じように買い物ができるように支援した。(はじ丸 月2回)
- 3)L I F E(科学的介護情報システム ※1)推進チームの主導による科学的介護の推進に取り組んだ。
- (1)科学的介護推進加算Ⅱ・栄養マネジメント強化加算・褥瘡マネジメント加算Ⅱの取得を行った。
- (2)褥瘡予防を介護、看護、栄養部門・介護支援専門員等が連携し、発生者ゼロを継続している。(褥瘡=床ずれ)

3. 家族との関係を強化。

- (1)面会の緩和(毎日、午後、居室) (2)一筆便の発送(隔月) (3)コスモス祭りの参加 家族106名
- (4)家族懇談会の開催 (5)入居者と家族の交流支援 ・自宅への一時帰省、家族との外食等に取り組んだ。

4. 地域福祉の推進。

- 1)ボランティアの受け入れ (1)日赤奉仕団文殊分団 延25名 (2)コスモス祭り 7名 (3)演芸等8団体71名
- 2)学校等との交流 (1)コスモスの花を文殊こども園、文殊小学校等に提供。 (2)文殊こども園園児との交流。
- 3)桜のライトアップ、コスモスロード、バラ園等の整備を行い、地域の自然環境向上に貢献した。
- 4)介護資格養成校の介護実習生16名を受け入れた。 介護職員初任者研修14名、介護福祉士実務者研修2名

※1 LIFE(科学的介護情報システム)とは、介護施設等が行っているケアの計画・内容や利用者の状態等の情報を厚生労働省に送信し、そのデータが分析されフィードバックされる情報システムです。LIFEの活用により介護施設等はケアの質の向上に取り組み、利用者は質の高いケアを受けられるようになると期待されています。